

2019年度（第17回）

関西ミッドアマチュアゴルフ選手権 決勝競技

期 日 2019年10月9日～11日

場 所 奈良国際ゴルフ倶楽部

一般社団法人 関西ゴルフ連盟

ローカルルール

1. アウトオブバウンズは白杭のコース側を地表レベルで結んだ線によって定められる。
ただし、現にプレーするホールの白杭を結ぶ線を越えて他のホールに止まった球はアウトオブバウンズの球とみなす。
2. 修理地は青杭または白線によってその縁を定める。
3. イエローペナルティーエリアは黄杭、レッドペナルティーエリアは赤杭によってその縁を定める。
4. ジェネラルエリアにある排水溝はジェネラルエリアにある動かさない障害物とする。
5. 電磁誘導カート用の複数のレールは、その複数のレールの全幅をもって1つのカート道路とみなす。
6. 人工の表面を持つ道路に接した排水溝は、その道路の一部とみなす。
7. 防球ネットからの救済を受ける場合は、その障害物の上を越えたり、中や下を通すことなく、完全な救済のニヤレストポイントを決定しなければならない。このローカルルールに違反して誤所から球をプレーしたことに対する罰：規則 14.7a に基づく一般の罰。
8. 特定の用具の使用制限
 - a. 『適合ドライバーヘッドリスト・ローカルルールひな型 G - 1』を適用する。
 - b. 『溝とパンチマークの仕様・ローカルルールひな型 G - 2』を適用する。
 - c. 『適合球リスト・ローカルルールひな型 G - 3』を適用する。
 - d. 『動力付き移動機器の使用禁止・ローカルルールひな型 G - 6』を適用する。
ただし、第 9 番ホールからクラブハウスへの移動および委員会が認めた場合や、事後承認された場合を除く。
9. 規則 10.3a は次のように修正される：プレーヤーはラウンド中に委員会によって指定された者以外をキャディーとして使ってはならない。
ローカルルールの違反の罰；
 - ・ そのプレーヤーはそうしたキャディーに援助してもらった各ホールに対して一般の罰を受ける。
 - ・ 違反がホールとホールの間で起きたり、ホールとホールの間まで続く場合、プレーヤーは次のホールで一般の罰を受ける。
10. 規則 5.5b は次のように修正される：2つのホールのプレーの間、プレーヤーは次のことをしてはならない：
 - ・ 終了したばかりのパッティンググリーンやその近くで練習ストロークを行う。または、
 - ・ 終了したばかりのパッティンググリーンの表面をこすったり、球を転がすことによってパッティンググリーン面をテストする。
11. 規則 5.2b は次のように修正される：プレーヤーはラウンド前やラウンドとラウンドの間にコース上で練習してはならない。
12. 危険な状況のためのプレーの中断は、1回の長いサイレンによって伝えられる。その他すべての中断は、短いサイレンの繰り返しによって伝えられる。どちらの場合も、プレーの再開は1回の長いサイレンによって伝えられる。（規則 5.7b 参照。）
13. 『ゴルフ規則の詳説・ローカルルールひな型 E - 12』を適用する。
14. 『ゴルフ規則の詳説・ローカルルールひな型 G - 9』を適用する。
15. 第 17 番ホールにあるペナルティーエリアの中に球があるか、見つからない球がそのペナルティーエリアに止まったことが分かっている、または事実上確実である場合、プレーヤーには次の選択肢があり、それぞれ 1 罰打で：
 - ・ 規則 17.1 に基づき救済を受ける。または、
 - ・ 追加の選択肢として、元の球か別の球をドロップゾーンにドロップする。このドロップゾーンは規則 14.3 に基づく救済エリアである。ローカルルールに違反して誤所から球をプレーした事に対する罰：規則 14.7a に基づく一般の罰。

16. 『ペナルティーエリアの中にある球についての暫定球・ローカルルールひな型 B - 3』を第 17 番ホールに適用する。
17. パッティンググリーン前後やフェアウェイの長さかそれ以下に刈ったジェネラルエリア部分にあるヤードージ用にペイントされた線や点は修理地として扱われ、規則 16.1 に基づく救済を受けることができる。しかし、ペイントの線や点がプレーヤーのスタンスにだけ障害となる場合、障害は存在しない。
18. プレーのペースについて
各ホールのプレーに許される時間の限度を記載した「タイムパー」をスタート時に配布するので、これに遅れないこと。特別な事情もないのにこの時間より遅れた場合（アウトオブポジション）、ストロークに要する許容時間を個別に計測する。
※アウトオブポジションに該当しなくとも遅れが生じていると委員会が判断した組に対してはペースの回復を求めることがある。
※特定の選手のペースが著しく遅い場合はその組がアウトオブポジションに該当しなくとも、その選手に通知した上でショットに要する時間を計測し、罰則を適用することがある
- (1) アウトオブポジションの定義
次の両方に当てはまったとき、その組はアウトオブポジションとなる。
(a) あるホールのプレーを終えた時点で、スタートからそこまでの実際の所要時間の合計が、「タイムパー」に記載された時間をオーバーした場合。
(b) 第 2 組以降の組では、前の組との間隔がスタート時点での間隔時間を超えた場合。
- (2) アウトオブポジションとなった場合の措置
あるホールを終えてある組が特別な事情がないのにアウトオブポジションとなった場合、競技委員はホールとホールの間でその組全員に、アウトオブポジションとなったこと及び次のホールから各プレーヤーのすべてのストロークに要する時間を計測することを通知する。委員会がその組の各競技者のストロークに要する時間を計測し(3)の許容時間を超えた場合、プレーヤーに(4)の罰則が適用される。
例外：特別な事情(ルーリングや紛失球等)があったと委員会が判断した場合、委員会はその組に対して前の組との間隔を縮めるように求める。その結果、合理的時間内に遅れを取り戻すことができれば、各競技者のストロークに要する時間は計測しない。
- (3) ストロークに要する許容時間
原則：40 秒。
例外：パー3 ホールにおいて最初にプレーする者、パー4 とパー5 のホールにおいて第 2 打地点から最初にプレーする者、パッティンググリーン周辺やパッティンググリーンの上で最初にプレーする者のショットの許容時間は 50 秒とする。
注：ストロークに要する許容時間の計測はその競技者のプレーの順番が回ってきた時に開始する。
- (4) 罰 則
バッドタイム 1 回目－警告、バッドタイム 2 回目－1 打の罰、バッドタイム 3 回目－更に 2 打の罰、バッドタイム 4 回目－競技失格
注：アウトオブポジションとなった組は、その後で遅れを取り戻しても、そのラウンド中のバッドタイムの回数は持ち越す。

注 意 事 項

1. 練習は指定練習場で行い、打球練習場では備え付けの球を使用し、スタート前の練習は 1 人 1 箱を限度とする。なお、打球練習場での右サイド方面への使用クラブは飛距離 200 ヤード以下のものに限る。
2. ラウンド中、競技者は部外者を近づけないよう十分、留意すること。なお、部外者のコース内立入りは禁止する。
3. 委員会は競技中を含めいつでも、出場に相応しくないと判断した競技者の参加資格を取り消すことができる。
4. プレーヤーまたはそのキャディーにエチケット違反、または非行があった場合には「KGU 細則第 43 条」に基づいて制裁を受けることがある。また重大な非行があった場合には規則 1.2a に基づいて失格とする場合がある。